

# ブラジルの政策金利引き下げについて

## ポイント① 政策金利を7.00%に引き下げ

12月6日（現地時間）、ブラジル中央銀行は金融政策決定会合において、市場予想通り、政策金利を0.50%引き下げ、年率7.00%とすることを全会一致で決定しました。

政策金利は、1999年の完全変動相場制への移行以来、過去最低金利となりました。10会合連続での利下げとなり、2016年10月以降の利下げ幅は合計7.25%となりました。利下げ幅の0.75%から0.50%への減速は、市場参加者の大半の予想に沿うものでした。

## ポイント② 2会合連続で利下げ幅を縮小

同中銀は、良好なインフレ動向を受け、引き続き同国の経済活動を支援するために利下げを決定しました。

10月のインフレ率（拡大消費者物価指数）は、前年比2.7%と2ヵ月連続で上昇したものの、同中銀の目標レンジの下限水準である3.0%を下回る低水準になっています。同中銀はインフレ動向について「望ましい状況が続いている」と述べています。

今後のインフレ率見通しについて同中銀は、市場参加者が予測する政策金利水準（2017年、2018年末については7.00%、その後2019年末は8.0%に達する。）を前提としながら、2017年のインフレ率については2.9%、2018年と2019年については4.2%程度と予想しています。

同中銀は、「基本シナリオ、リスクバランス、入手可能な幅広い情報を考慮し、0.50%の利下げを決定し、年率7.00%とした」としています。

## ポイント③ 更なる利下げペースの減速を示唆

同中銀は、「状況が基本シナリオ通り推移すれば、金融緩和サイクルのステージも考慮し、次回の会合でも利下げペースを緩やかに減速させることが適切と現時点では考える」と来年2月の会合での利下げも示唆しています。

一方で「今回のガイダンスは、過去の会合よりも基本シナリオ、リスクバランスの変化の影響を受けやすい」との見解を示し、より慎重に金融政策を実施していく姿勢をにじませました。

図1：政策金利の推移

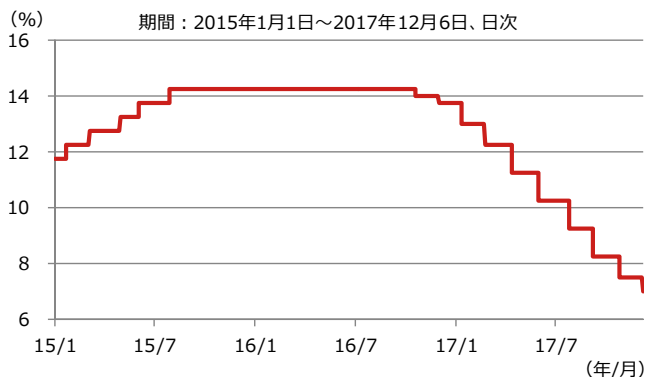


図2：拡大消費者物価指数（前年同月比）の推移

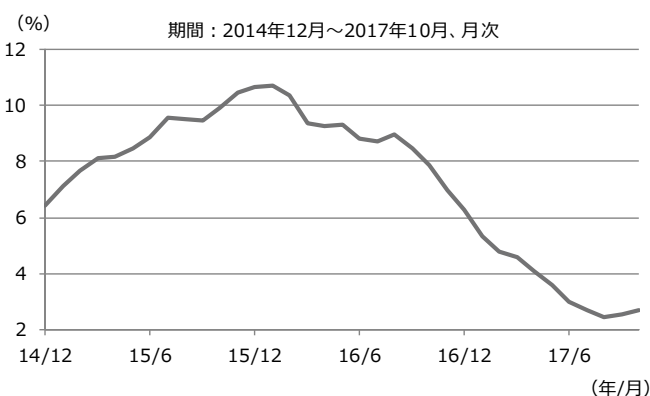
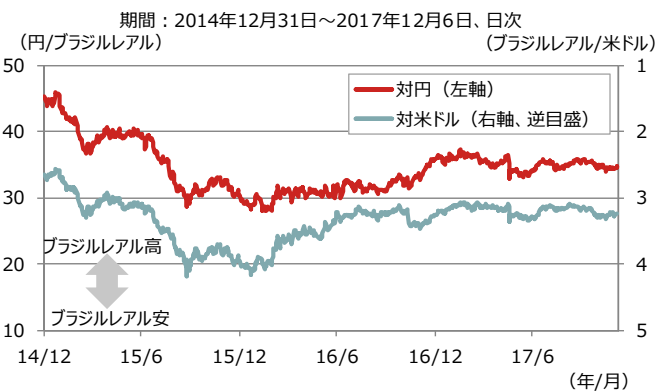


図3：為替レートの推移



(出所) Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成

重要  
イベント

12月8日	IPCA (拡大消費者物価指数、11月)
12月20日	経常収支(11月)
12月27日	基礎的財政収支(11月)